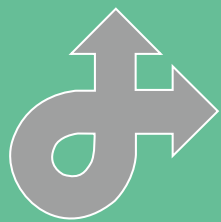


新制作

SHINSEISAKU



Vol.67/2014
新制作協会 広報誌

第78回展

国立新美術館 2014.9.17-9.29



期待のメール

今冬は大雪が来ました。美術少年の日、すぐ様写生に向ったことを思い出しました。また冬期オリンピックでは新人とベテランの相まった活躍を見ることができました。

皆さんは秋の本展にどのような成果を発表されるか、今構想を固めておられる頃でしょうか。すでに着手している方もあることでしょう。

ルネサンスの建築家アルベルティは『絵画論』の初めの辺で、真に秀れた作品とは祭壇画のようなもので、他者にそれが崇められていると知った時が作者として、理想のあり方だと書いていました。古いけれど、永遠の課題でありましょう。忘れられない表現です。

新制作展は1936年に開かれた団体展です。会員も協友も出品者も一丸となって互にせっさたくまのできる環境として類のない秀れたグループです。異

なったジャンルが一堂に会して見られることも楽しさを倍加するものでしょう。

ところで今春、1950年・60年代を中心にこの国の前衛美術運動の先駆けとなって、団体展を超えるかの活動を果たしたハイレッドセンターや、工藤哲巳の回顧展が開かれました。私と同年輩で、自身迷っていた頃からの知友でもあり、時代と変遷を感じさせられました。同時に、今日に続くいわゆる現代美術の動向には、今や一方で団体展のかかえるものに等しいマンネリズムの欠点が内包されているように見えてなりません。主体と受け手の両面にかかわる精神文化としての評価の問題として。しかし、そうした動向に関心を寄せ眼を離せない若い世代も多いのです。それ故に、対岸の火として傍観はできず、刺戟するものがあるのではな

いでしょうか。

私は1950年代の初め頃から新制作展



委員長
ふくだ よしき
福田 徳樹

を見て来ました。いつもフレッシュで、明るく、大きな肯定的な風が会場に流れていました。そのような伝統は貴重なものとして今日に続いていると思います。歴史として、静観して考えて。しかし、自らを正す姿勢を忘れマンネリズムにおち入ってしまうことはできません。

内からのあふれるような詩情と思想と批評、さらに技術の伴った表現により品位と洗練を感じさせる、感動のある作品を出品して頂けることを心からの楽しみとしております。そしてその前で美術を共にする交友を暖め、語り合える機会となることを期待しております。

2014年度協会新代表委員

【代表委員】

委員長 福田徳樹（絵画部）
副委員長 久保制一（彫刻部）
" 佐伯和子（SD部）

委員 ●絵画部

菅沼光児、平田智香、松木義三
矢澤健太郎
●彫刻部
上松和夫、宇多花織、瀬辺佳子
●SD部
下山肇、杉田文哉、吉田淳子



代表委員

【合同委員会】

- 会計委員会 ●図録委員会（図録/広告）
- 美術館担当委員会
- 広報委員会（広報/PR/会報/HP）
- IT委員会 ●受賞作家展委員会
- 慶弔委員会 ●美術団体懇話会
- 会計監査

新制作展に初めて応募される方、すでに作品応募の準備をされておられる方へ…

作品公募制ですので、質の高い優秀な応募作品を期待し、貴作品による発言の場を設けています。

公募情報は、美術関係誌広告、協会発行の公募ポスター・リーフレット・応募規定、公式ホームページをご覧ください。

応募申込みと問い合わせは

- Tel / 03-6233-7008
- Fax / 03-6233-7009
- E-mail / webmaster@shinseisaku.jp
- 公式HP/ <http://www.shinseisaku.jp>

新制作協会 〒160-002

東京都新宿区新宿6丁目28番10号
大阪屋ビル202号



※新作家賞受賞者には、賞牌として彫刻部会員橋本裕臣氏の作品が授与されます。

第78回 新制作展

9.17 (水) — 9.29 (月)

10:00 ~ 18:00 (入場 17:30 まで)

【開催時間等は変更の場合あり。開催状況の確認は、国立新美術館HP・ハローダイヤル(03-5777-8600)で】

国立新美術館

入場料 一般：800円（学生無料）

金曜日・土曜日夜間開館 20:00終了 (入場 19:30)

最終日 9/29 (月) 14:00 終了 (入場 13:30 まで)

休館日 9/24 (水)

Information

巡回展開催日程

- ◆ 京都展
京都市美術館
10/17(金)~10/26(日) 休館日 10/20(月)
- ◆ 名古屋展
愛知県芸術文化センター8Fギャラリー
11/11(火)~11/16(日) 休館日 なし
- ◆ 広島展
広島県立美術館・県民ギャラリー
11/25(火)~11/30(日)

各部より

絵画部

菅沼 光児

東京都美術館から国立新美術館に移り早くも8年目を迎える事になりました。

社会情勢の急速な変化の中で美術界においても例外ではありません。

特に公募美術団体は厳しい状況におかれています。新制作協会においても、難しい舵取りを迫られています。

新制作展は一般的に厳選と言われていますが、丁寧な審査、展示を常に心がけています。

私事ですが、先日ジャンルを超えた作家のグループ展に参加しました。殆どの作家が一度も会った事がなかったので、どんな展覧会になるのか不安でしたが、展覧会が始まり多種、多様の作品が集まり興味深い展覧会でした。アーティストトークでは各自の作品の制作にあたってのこだわり、コンセプトなどを聞く事ができ、作家は作品を作る上でのテーマが重要であるという事を改めて感じました。本年も昨年同様に皆様の力作を期待しています。

●オープントーク / 絵画展示室

9/17 (水) 14:00 ~ 16:30

会期初日に日本全国の会員や一般出品者が最も多く集まります。

会員と一般出品者が作品について語り合うチャンスです。皆様の積極的な参加をお待ちしております。

●ギャラリートーク / 絵画展示室

9/21 (日) 14:00 ~ 17:00

会員の展示作品の説明や会員による一般出品者の作品の講評や質疑応答などを行いながら進める予定です。

●グッズ販売 / 2F休憩室

今年も会員作品のカンバッジやポストカードを販売いたします。

●チャリティー販売 / 2F休憩室

東日本大震災から三年がたちました。今年も「東日本大震災チャリティー展」を行います。昨年も皆様のご協力により「あしなが育英会」に寄付する事ができました。お目当ての作家の作品をご希望

の方はお早めにいらしてください。

彫刻部

瀬辺 佳子

例年にない大雪で2014年は始まりましたが、代表委員会、その他係の方々は78回展の準備を進めております。彫刻では先頃、昨年度を受賞作家展が充実した内容で開かれました。活気に満ちた会場は新しい息吹を感じさせました。4月からの消費税率の引き上げ、その他公募展の置かれている状況等、もろもろ困難がよこたわっておりますが、78回展が会員のみなさまの力作で満ちあふれ、新制作が、いまを生き、現代と切り結ぶ作家集団であり続けることを願っております。

また、彫刻部ではオープントーク / ギャラリートークを企画し観てくださる方々と作家、又作家同士の交流を図りたいと考えています。昨年は、初出品の方々のトークをいたしました。彫刻に対する真摯で熱い思いが、観客の方々にも、他の会員にも伝わったと思います。78回展の仔細につきましてはまだ未定ですが、濃密な時間が生まれるようにしたいと考えております。また、展示方法にも力を尽くし、例年にも増して良い展示にしたいと思っております。78回展がすばらしい展覧会となりますよう！！

●オープントーク / 彫刻部展示室

9/17 (水) 15:00 ~ 16:30

●ギャラリートーク / 彫刻部展示室

9/21 (日) 14:00

●チャリティー作品販売

大震災の年から彫刻部では自分たちができる復興協力活動の一つとして展覧会の会期中に作品の販売を計画しました。作家有志による立体(素材は、石、木、ブロンズ、その他)とデッサンです。売上げは被災された方々に寄付されます。今年で4回目となります。たくさんの方のご協力をお願いしたいと思います。

●ポストカード販売

展覧会に出品されている作品の写真で

にしております。

スペースデザイン部

代表 委員

新制作スペースデザイン部は「空間＝スペース」におけるあらゆるジャンルのデザイン作品を対象とします。

展示空間は、床置き、壁付け、宙吊りや、照度をおさえた空間、また自然の光や風を感じる野外空間などさまざまです。加えて、6年目を迎えたミニアチュールも表現の場として定着し、展示会場において重要なアクセントになってきています。78回展を迎え、より一層充実した魅力ある会場づくりを目指しております。さまざまな作品表現とその空間をご覧頂きたいと思えます。

●レクチャー (5回目) / 3F 研修室

9/23 (火) 14:00 ~ 15:00

タイトル『布をかたる』SD 部会員 桜井玲子氏、雨山智子氏を講師に迎え、作家の制作現場やその具体的な表現手段についてインタビューを通して創作の魅力に迫ります。

●フリートーク / SD 展示会場

9/23 (火) 15:30 ~ 16:30

会員や出品者、また観覧者が自由に話し合える場で、作品に対する質問や意見を交わせる有意義な時間です。会員が会場にてお待ちしておりますので、お気軽にお声かけください。

※尚、開催日時は変更になる場合がございます。詳細についてはホームページに掲載致します。ご確認ください。

●チャリティーグッズの販売

大変好評を頂いております、会員によるスペースキューブと会員及び受賞作品の写真はがきを会場にて販売いたします。尚、収益金は「あしなが育英会」を通じて「東日本大震災津波遺児募金」に寄付させていただきます。SD 部はこれからも創作活動を通じて被災された方々を応援いたします。



受賞作家展

絵画

銀座 井上画廊
1/20MON - 1/25SAT

- 受賞者
- 板谷 諭使
 - 海野 厚敬
 - 柿原 康伸
 - 金井 健一
 - 鶴川 勝一
 - 原田 早多子
 - 山口 蒼平



海野 厚敬
別世界 F100



柿原 康伸
港の休日 M 80



金井 健一
原風景 (A) F100



原田 早多子
桌上的静物 F100

彫刻

ギャラリーせいほう
2/10MON - 2/21FRI

- 受賞者
- ゼロ ヒガシダ
 - 青木 悠太郎
 - 江村 忠彦
 - 高野 正晃
 - 田中 和之
 - 濱田 卓二
 - 松枝 源太郎



ゼロ ヒガシダ
INORI (カウラの空)



江村 忠彦
ひとり



高野 正晃
今日と明日の間





鶴川 勝一
考える人 P100



板谷 諭使
小説家と海 F100



建築会館ギャラリー
2/10MON - 2/15SAT

- 受賞者
- 五十嵐 史帆
 - 五十嵐 通代
 - 鈴木 未都
 - 萩原 真輝



山口 蒼平
冬虫夏草 F100



五十嵐 史帆
abag 3
300x200x70 cm



松枝 源太郎
立像



青木 悠太郎
しぼる



萩原 真輝
交柱 45x45x200 cm



鈴木 未都
縞 108 x 168 x 14 cm



田中 和之
ふと見上げると

濱田 卓二
自然から〜Seed shape II〜



五十嵐 通代
共生
200 x 80 x 20 cm

新制作

新制作生みの親・育ての親 〈11〉

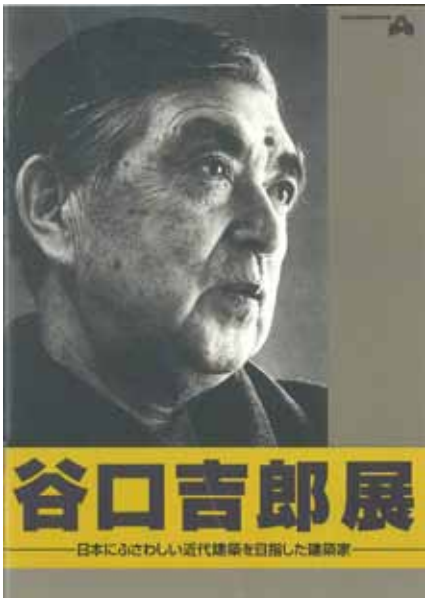
絵画部会員 荒井 茂雄

みなさんこんにちは。ようやく春らしくやさしい暖かい日が続くようになりましたが、みなさんはお元気ですね。

さて今回は、新制作のスペースデザインの前身で、建築部創立会員である、谷口吉郎の作家像を紹介したいと思います。

皆さんもご承知のように新制作は、絵画部創立会員九名でスタートしましたが、新制作四回展には彫刻部がつくられ、十三回展には建築部が発足、十五回展には日本画部が加わり、三十七回展では建築部がスペースデザイン部になりました。建築部のメンバーは二十世紀をリードした建築界のトップメンバーで、池辺陽・岡田哲郎・丹下健三・吉村順三・谷口吉郎・前川国男・山口文象の七名ですが、なかでも谷口吉郎は、日本建築の美を世界にひろめた建築家です。

建築に生きる谷口吉郎展1997～1998年に、東京・福岡・名古屋・金沢で開催されました。そのカタログの中に、谷口吉郎が、深い創作観点を三部にわたり述べています。



『建築に生きる』

1. 建築が満足すべき目的は、第一に、「用途」という使用目的である。しかし、その使用目的を越えて、人々の心を感動せしめる大きな表現力の存することが、これによってもわかる。もちろん、その表現力は用途を離れて存するものではなかろうが、時として、用途をとび越え、時代を超越し、過去の「形」から、強い表現力が新しく発揮される場合のあることを認めねばならない。あるいは建築の種類によっては、そんな「形」の問題こそ、その建築の全目的となる場合がある。その時、建築が発揮する力は、もはや用途の効果でなしに、人の心に直接響く表現の美である。

(「雪あかり日記」より)

2. 建築こそ歴史の花であろう。過去の花、現代の花、色とりどりの中で、いつも私の心をひくものは、その建築の美しさにひそむ清浄な意匠心である。建築は口を持たない。沈黙である。(「雪あかり日記」より)

3. しかし建築は沈黙にもかかわらず、その「形」は表情を持ち、作者の心を伝える。小さい家であろうが、工場であろうが、或いは一個の墓標にしても、すべての「形ある物」は、それを築いたものの意匠心を示す。

だから、建築の造形は、人間のこの世における「願い」や「祈り」の表現でもある。(「清らかな意匠」より)』

建築家谷口吉郎は、生命を生かした日本建築を、数えることのできない程二十世紀に創り残されました。なかでも東宮御所は、(1960年 RC造二階建て一部地階南庭の池、それに渡廊下を介して雁行形に連なる高床の建物群など、平安時代の邸宅を思わせる構成をとる。王朝風のイメージは内部に展開された多様な色彩にもうかがえる。)太古のヤマトの魂が空間に漂い、これこそが日本建築であることを識らせてくれます。

森鷗外、志賀直哉、北原白秋、徳田秋声などの文学碑、記念碑の作品空間にも、宇宙につながる自然が息づいている。日本古来の神道は、大自然を神とみる。山には山の神が、川には川の神があるように、物、建築にもまさに神をみる。建築家谷口吉郎にその生命があればこそ、現代日本建築の深い静寂の美が創られたのではないのでしょうか。尊敬の念をもって

敬称略

今回はこれにてお別れです。又秋にお会いいたします。

訃報 (平成26年4月末現在)

新制作協会発展に尽力されました故人を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

堀越 政壽
絵画部会員

平成26年2月9日逝去
(享年89才)



丹羽 和子
絵画部会員

平成26年4月14日逝去
(享年90才)



荻 太郎と新制作

蕪 崎大村美術館

絵画部会員 佐野 ぬい

荻太郎の作品を、私が初めて見ることが出来たのは、今から60年程前のことでした。

本州最北端の青森県に生まれ、高校生だった私達は大都市東京への修学旅行を楽しみにしていました。

ちょうど出かける時期に、私は上野の東京都美術館で「第4回美術団体連合展」という美術団体の殆んどが、見られる展覧会があるのを知りました。高校生の東京での修学旅行の団体から外れて、一人で上野の美術館に行きました。

美術雑誌で見ていた画家の絵が、ずらりと沢山並んでいるので、すっかり感激してしまい夢中で見て回りました。油絵具の匂いがそのまま伝わって来そうな会場で、黒いドレスと白の余白の美しい絵が際立って目に入ってきました。

荻太郎の作品「黒と白」でした。余白の美しさにはっとしました。黒と白のコントラストにすっかり魅了されました。

会場にはもう一点とても好きな絵がありました。洋酒の瓶、果物、丸い器、コンポートなどが、特徴あるマチエールと色彩で、大胆奔放に描き込まれていました。「静物」と題した三岸節子の作品でした。

荻太郎、三岸節子の色彩の美しさは、

私の記憶の中にとどめて、美術館の売店でモノクロしかなかった絵葉書を買って求めました。新制作派と書かれていました。

今、アトリエでセピア色にあせて画鋏の大きな穴のあるこの二枚の絵葉書を見ていると、青春時代の私の夢や希望や憧れを感じます。

1955年、美大を卒業した年に「新制作展」に出品しました。両先生が新制作の会員でいらしたからです。そして初入選以来現在まで新制作に出品を続けています。

*

平成26年1月19日から3月16日まで、蕪崎大村美術館で「荻太郎展」－精神造形への挑戦－が開催されました。この展覧会で、新制作第2回展に出品入選したとされる作品が、大村館長のご厚意で修復され、私達は初めて初公開の大作を見られることになったのです。

150号の油彩「踊子小憩」と「死せる風景・ボンコツ」の二点は重っていて、荻先生が美大の学生だった昭和初期に描かれたとされていますが、長い間行方不明でした。本人に何か特別の意志があったのかは、今になっては判りません。－精神造形への挑戦－は、荻先生の画業に一層の深さと背後にひそむ意志的なものを思わせました。



特に「踊子小憩」は、瑞々しいその色彩が鮮やかに甦って、当時の新制作の作家に共通する結びつきがあるように響いてきました。新制作展では、毎年荻先生に批評していただくのを緊張しながら楽しみにしていました。

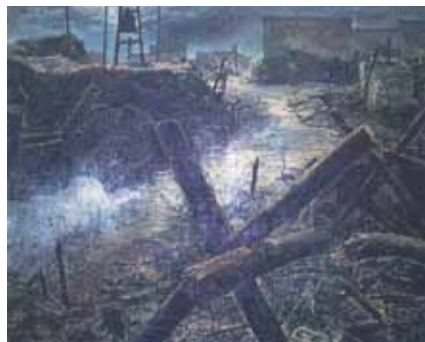
明日はもっといい絵を描くようにと、常に勇気づけて下さいました。

今年2014年で新制作は78回展になります。

1936年に「新制作派協会」として新制作は発足しました。自由と純粹さを求めて立ち上がった若き青年画家は、猪熊弦一郎、伊勢正義、脇田和、中西利雄、内田巖、小磯良平、佐藤敬、三田康、鈴木誠の9人です。その後間もなく荻太郎も出品、会員となっていきます。創立3年後には、志を共にする彫刻部が設けられ、戦後には建築部、日本画部が合流しました。創立当時の会員が白いスーツで並んでいる勇姿を見ていると、澄んださわやかな空を見ているような清々しい気分になります。この清々しさを忘れずに、皆で新制作を盛り上げて行きたいと思っています。



「踊子小憩」(初入選 第2回展)



「死せる風景・ボンコツ」(制作年不詳)



荻太郎展の会場風景

公募団体ベストセレクション
Best Selection 2014

5月4日(日・祝)~5月27日(火)
会場：東京都美術館



この度は「ベストセレクション2014」に推薦いただき大変嬉しく思っています。師の真似事から始まった制作から、いつの間にか30年が経ってしまい、毎年、何か新しい試みをとらいつつ造り続けて、気が付いたら周囲は、試作や端材、道具や仮設材などの俄楽苦多の山になっています。でも、愛しい俄楽苦多達、それらをガラガラと引き摺り掻き混ぜながら、

また新しい「超・俄楽苦多」を造り出そうともがいている様こそ、余程、アートに近いのではないかと思ったりしています。他の公募団体は良く知りませんが、恐らくはそんな輩が集まって互いに披瀝し励まし合っている奇異な団体こそ「新制作」なのだ勝手に思い込み、これからも試作に励みたいと考えています。

SD部 伊藤 哲郎

出品作家

金森 幸司	「ライフ〈たびすとリーのある部屋で〉」
西田 周司	「Real Dub World 11(慶世羅々々)」
田村 研一	「CATASTROPHE-BOWL」
山口 蒼平	「冬虫夏草「蛾」」
鈴木 武右衛門	「バリ 酔夢紀行2013」
河西 栄二	「ヒト」
ゼロ・ヒガシダ	「INORI II」
伊藤 哲郎	「sanaruX」



《伝言板》

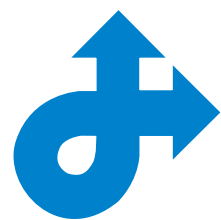
- 昨年8月12日に逝去された絵画部会員 渡辺恂三氏を偲んで、4月13日(日)松本楼(日比谷)に於いて「画家 渡辺恂三氏を偲ぶ会」が営まれました。
- 新制作協会事務所移転のお知らせ
新制作協会は3月より事務所を下記に移転いたしました。



- 〒160-0022
東京都新宿区新宿6-28-10大阪屋ビル202
TEL : 03-6233-7008 FAX : 03-6233-7009
- 都営大江戸線・副都心線
「東新宿」……徒歩2分(A3出口)
- JR中央線・山手線
「新宿」……徒歩10分(東口出口)
- 丸の内線・都営新宿線
「新宿三丁目」……徒歩6分(地下通路E1.E2出口)

編集後記

編集にあたり取材、寄稿等ご協力戴きました皆様には、この場をお借りしてあらためてお礼申し上げます。
(辻井)
京都の宮武義郎様ご投稿ありがとうございました。
(会報委員)



新制作協会

〒110-0013
東京都新宿区新宿 6-28-10 大阪屋ビル 202
Tel : 03-6233-7008 Fax : 03-6233-7009
URL : <http://www.shinseisaku.jp/>
E-mail : webmaster@shinseisaku.jp
発行/新制作協会
企画・編集/広報委員会広報誌編集委員
千葉 文隆、辻井 久子、岡 孝博、
永津 守、中野 威
監修/福田 徳樹
制作・印刷/株式会社 ベクトル
発行日/2014年5月
表紙絵/金森 幸司

*広報委員会では、新制作展に関わるニュース、伝言、ご批判、ご意見をお待ちしております。お気軽にお寄せください。次号をご希望の方は協会事務所迄ご連絡ください。